

【名古屋・岐阜地方気象台】流域治水への取組

資料2-1



- 気象に関する予報精度の向上への取組として、線状降水帯の予測精度の向上や最大危険度予測(土砂災害・浸水害・洪水)の検討を進める。
- 地域における気象防災業務の強化の取り組みとして、近年相次ぐ自然災害を踏まえ、気象庁の情報が防災対応判断に活かされるよう、市町村等で「理解・活用」いただくための支援を行う。

＜関係機関との連携強化の取り組み＞

平時

- ✓気象台長の市町村長との「顔の見える関係」を構築・深化
 - ✓「あなたの町の予報官」を編成して支援・連携
 - ✓防災気象情報の理解・活用のための実践的な研修・訓練等の実施
- 自治体職員対象の気象防災ワークショップ
(令和元年5月愛知県災害情報センターにて実施)
- 警報や危険度分布(キクル)等を用いて防災対応を疑似体験
- 大雨警報(土砂災害)の危険度分布 大雨警報(浸水害)の危険度分布 洪水警報の危険度分布
- ※市町村毎のデータベースのイメージ
地域防災計画、ハザードマップ、地域特性、災害履歴と災害時の気象状況及び地震・火山活動の状況 等

緊急時

- ✓ホットライン等により予報官の危機感を確実に伝達
 - ✓災害対応支援のため「気象庁防災対応支援チーム(JETT)」を派遣
- 令和3年7月3日静岡県熱海市で発生した土砂災害に対応して、熱海市へ広域派遣



今後の天候や注意報・警報の見通しを解説・助言

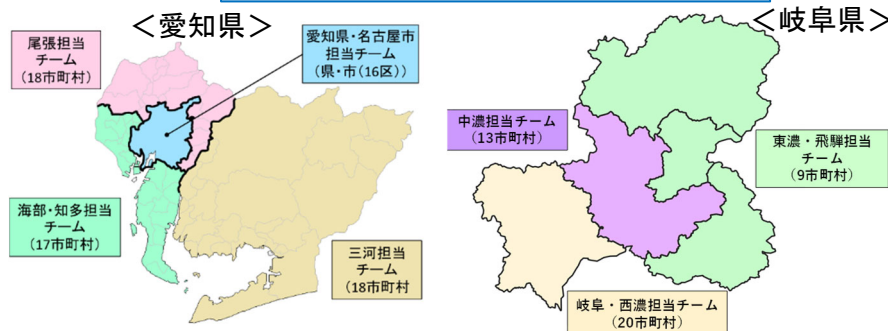


気象支援資料や防災気象情報を掲載したポータルサイト開設

災害後

- ✓市町村等と共同で「振り返り」、不断に取組を改善

地域担当チーム「あなたの町の予報官」



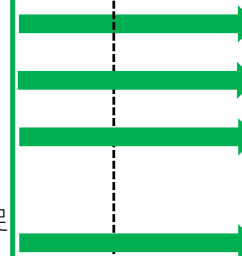
対策メニュー

短期

中・長期

【被害の軽減、早期復旧・復興のための対策】

- 被害軽減対策
 - ・気象に関する予報精度の向上
 - ・地下空間・地区タイムラインの作成・周知
(自治体で作成するタイムラインの見直し等への助言)
 - ・関係機関との連携強化
(地域の気象防災支援(あなたの町の予報官、JETT派遣))
- 住民の主体的な避難行動を促す取組
 - ・ハザードマップの周知及び住民の水害リスクに対する理解促進の取り組み
(住民への防災気象情報(キクル等)の利活用を促進)





【名古屋・岐阜地方気象台】気象に関する予報精度の向上への取組について

○気象に関する予報精度の向上への取組

- ・ 線状降水帯による大雨については、令和3年度に「顕著な大雨に関する情報」として、実況で検知したときの情報提供を開始した。
- ・ 中・長期的に、線状降水帯による大雨の予測精度向上を目指す

交通政策審議会気象分科会提言「2030年の科学技術を見据えた気象業務の在り方」に基づき、**線状降水帯の予測精度向上の取組を順次進めており**、令和2年7月豪雨を受け、**これらの取組を加速**させるとともに、予測技術の精度を踏まえた**線状降水帯による集中豪雨に対する情報を段階的に提供** ⇒ **国民ひとりひとりに危機感を伝え、防災対応につなげていく**

令和3年6月17日
から提供開始

線状降水帯がもたらす降り続く顕著な大雨への注意喚起

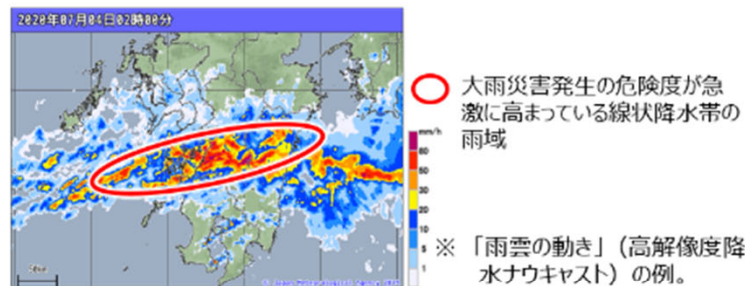
- 線状降水帯の事前予測が難しい中、レーダー等による観測で、線状降水帯が発生していることを検知した際に情報を発表
- 大雨による災害発生危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で降り続いている状況を「線状降水帯」というキーワードを使って解説

顕著な大雨に関する情報の例

顕著な大雨に関する〇〇県気象情報

〇〇地方、〇〇地方では、線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続いています。命に危険が及ぶ土砂災害や洪水による災害発生危険度が急激に高まっています。

顕著な大雨に関する情報を補足する図情報の例



最新の科学的知見により解析・予測技術を向上し、徐々に精度を上げていく

令和4年以降の改善

- 半日前から線状降水帯等による大雨となる可能性についての情報を提供 (令和4年)
- 次期気象衛星への最新技術の導入やスーパーコンピュータの高性能化等を通じて、監視・予測技術の精度を向上
- 半日前から線状降水帯に伴う集中豪雨を高い確率で予測し、これに伴う災害発生危険度を面的に提供 (令和12年までに)

